

ロタ定期予防接種についてのご案内



令和2年10月1日から定期接種が始まります。
対象は、令和2年8月1日以降に生まれたかたです。

ロタウイルス胃腸炎とは

口から侵入したロタウイルスが腸管に感染して発症します。感染力が非常に強く、手洗いや消毒などをしっかりしても、感染予防をすることが難しいため、乳幼児のうちに、ほとんどの子どもがかかります。下痢や嘔吐は1週間程度で治りますが、下痢や嘔吐が激しくなると、脱水症状を起こす場合もあり、乳幼児の急性胃腸炎の入院の中で、もっとも多い感染症です。初めてロタウイルスに感染した時は、特に重症化しやすく、まれに脳や腎臓に影響をおよぼすこともあり、注意が必要です。生後、すぐに感染する場合もあるので、ワクチンの接種は、早い時期に完了させます。

接種を完了させることで、入院するような重症化のほとんどが予防できます。

対象年齢及び接種方法等

ロタウイルスワクチンは、現在2つの種類があり、生ワクチンで経口（飲む）接種です。2種類とも、予防効果や安全性に差はありませんが、接種回数が異なりますので、他のワクチンとの接種スケジュールなどを考慮して選択します。なお、途中からワクチンの種類を変更することができませんので、最初に接種したワクチンを2回目以降も接種します。

それぞれの内容については下記のとおりです。ワクチンの種類については、医療機関にご確認ください。

ワクチン製剤名	ロタリックス（1価ワクチン）	ロタテック（5価ワクチン）
成分の違い	通常ヒトに感染する、ヒト由来ロタウイルスを弱毒化したウイルス（1種類）	動物由来のロタウイルスに、ヒト由来ロタウイルスの遺伝子の一部を入れ替えて、ヒトに感染できるようにした弱毒ウイルス（5種類）
接種時期	生後2か月～24週（約5か月半）まで	生後2か月～32週（約7か月半）まで
接種回数	27日以上の間隔で2回接種	27日以上の間隔で3回接種
備考	3回目の接種券は使用できませんので、破棄してください。	

どちらのワクチンも1回目の接種は、**出生14週6日後（約3か月半過ぎ）**までに受けることが推奨されています。推奨期間を過ぎた場合は、医師と相談のうえ判断してください。

なお、赤ちゃんのお腹がいっぱいと、上手にワクチンが飲めない場合がありますので、接種前30分ほどは授乳を控えることをおすすめします。ワクチンがうまく飲めなかったり、吐いたりしてしまった場合でも、わずかでも飲み込みが確認できていれば、ワクチンの効果に問題ありませんので、再度接種する必要はありません。

接種にあたっての注意

【次のかたは予防接種を受けることはできません】

- (1) 明らかに発熱しているかた（通常は37.5℃を超える場合）
- (2) 重い急性疾患にかかっているかた
- (3) このワクチンの成分によってアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性

のじんましん等を伴う重いアレルギー反応のこ)を起こしたことがあるかた

- (4) 腸重積症の既往のあるかた、先天性消化管疾患があり治療が完了していないかた、重症複合型免疫不全（SCID）を有するかた
- (5) 上記に掲げるかたのほか、予防接種を行うことが不適当な状態であると医師に判断されたかた

【次のかたは接種前に医師にご相談ください】

- (1) 心臓血管疾患、腎臓・肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患があるかた
- (2) 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられたかた
- (3) 過去にけいれん(ひきつけ)をおこしたことがあるかた
- (4) 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのあるかた、または近親者に先天性免疫不全症の者がいるかた
- (5) このワクチンの成分に対してアレルギーを起こすおそれのあるかた
- (6) 活動性胃腸疾患や下痢等の胃腸障害があるかた

【予防接種後の副反応】

ワクチン接種を受けた後に下痢、嘔吐、胃腸炎、発熱等がみられることがあります。海外の調査では接種後に腸重積症*や血便排泄等の副反応も報告されています。重い副反応として非常にまれですが、アナフィラキシー症状（じんましん・呼吸困難等）が報告されています。

※腸重積症：腸の一部が腸の他の部分に入り込み、腸が閉塞した状態。0歳児の場合、ロタウイルスワクチンを接種しなくても起こる病気で、元々、3～4か月ぐらいから月齢が上がるにつれて多くなります。自然発症する前に、できるだけ早く接種を完了させましょう。

【接種直後の留意点】

- (1) 接種後30分間は、アナフィラキシー等の副反応が起こることがありますので、医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。
- (2) 接種当日は、激しい運動をさけてください。
- (3) 接種当日の入浴は、差し支えありません。

【接種後2週間までの留意点】

- (1) “ぐったりして顔色が悪くなる”、“泣きと不機嫌をくり返す”、“嘔吐をくり返す”、“イチゴゼリー状の血便ができる”や“原因不明の不機嫌な様子”が1つでも現れたら、腸重積症が疑われるため、すぐかかりつけ医にご相談ください。
- (2) 高熱、けいれん等の異常を感じた場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
- (3) ワクチン接種後2週間ほどは、赤ちゃんの便にワクチンのウイルスが含まれることがあります。おむつ交換の後など、ていねいに手を洗ってください。特にご家族の中で免疫系に異常のあるかたがいる場合には、ワクチン接種を受けたお子様と接したあとの手洗いを徹底するなど注意してください。

健康被害救済制度について

定期の予防接種を受けた後、医療機関での治療が必要になったり、障害を残すなどの健康被害が生じ、その健康被害が予防接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定した場合は、予防接種法に基づく給付が行われます。

この制度については、「予防接種と子どもの健康」にも記載がありますので、必ず読んでから予防接種を受けてください。ご不明な点は、幸田町保健センターまでお問い合わせください。

【幸田町保健センター ☎（0564）62-8158、63-5172】